

## 広瀬隆講演会要約 「福島原発事故の真相と放射能汚染の恐怖」

2011年11月26日(土)18時30分～21時30分  
松山市コミュニティーセンター カメラリアホール

広瀬隆氏が愛媛に講演へ来た訳

- ・全国で原発と地震の恐ろしさを話してきたが、四国だけまだだったので強引に話に来た。
- ・西日本の人はわかってないと心配で、子どもたちの命がかかっているのだから、目を覚まし、立ちあがって欲しい。
- ・日本の報道界、特にテレビは嘘をつき続け、現在「福島原発事故はなかったかのよう」にされている、今回の講演を聞いて、みんなで検証し、自分の言葉で周りの人に真実を話し、ここに来ていない人をみんな変えていかないといけない。
- ・日本に残された時間はない。目の前の伊方原発を廃炉にしないと、みんな殺される。

講演内容要約

### 1、福島第一原発メルトダウン事故の真相

#### ① 原発は津波の前に壊れていた

- ・東京電力や国は、原発は津波によって壊れたと言っているが、それは嘘！
- ・原発はエネルギーの1/3しか電気にできず、2/3は熱として海へ捨てていて、その熱を奪う水の流れがなくなれば、メルトダウンしてしまう。そのためにいたるところに配管が通っている。その配管は原子炉建屋とタービン建屋という土台から施工業者まで違う建物を通っていて、地震の際はそれぞれの建屋が別々に動くので、壊れやすい。それは二つのビルをつなぐ回廊のようなものだ。
- ・その配管破断があった可能性が、サイエンスライター田中三彦氏によって指摘された。それは70気圧で運転されていた原子炉の圧力が、地震半日後に8気圧まで下がっていたからだ。どこかでおかまが抜けた証拠となる。
- ・また、つくば気象研究所で、事故後モリブデンが検出されたが、これは原発由来物質で沸点が4639℃で、これが検出されたということは、それよりも沸点の低いヨウ素、セシウム、ストロンチウムはもちろん、コバルト、プルトニウム、ウランもガスとなって飛散したことを意味するし、燃料棒の被覆管に使われているジルコニウム合金の沸点が1854℃なので、それも融けて、メルトダウンが起こったことも明らかである。

#### ② 1号機と3号機の爆発の違い

- ・格納容器には、水蒸気が噴き出した場合に格納容器を壊さないために、バルブが開くようになっているが、原発事故の時は放射能を閉じ込めるとするのが第一の使命なのに、そ

れを開いて大気中にばらまくことは絶対してはいけないことだった。

- ・それでも1号機と3号機は爆発したが、アメリカのアーノルド・ガンダーセン氏によって、その爆発の違いが明らかになった。

- ・1号機の場合は、圧力容器にある無数の配管に小さな亀裂が入り、格納容器に圧力がかかって、格納容器のふたを押し上げて、オペレーション・フロアに蒸気とともに水素ガスが上がって、酸素と反応して爆発、放射能をばらまいた。

- ・3号機の場合は、1号機と違い白煙ではなく、赤い炎が上がってから、真上に大爆発して黒い物が落ちてきた。この落ちてきた物は多分、使用済み核燃料プールで、そのため3号機周辺は異常な放射能値を示している。

- ・使用済み核燃料プールというのは、コンクリートの建物に一定距離はなして使用済みの燃料棒を入れて、水で冷やしておくもので、燃料棒の距離が近づくと臨界現象を起こす。しかし六ヶ所村再処理工場の不具合のためそのプールが満杯で、各電力会社はそれぞれの敷地内にあるプールで、徐々に距離を近づけながら保管してきた。それが今回臨界状態になり、爆発した可能性が高い。

- ・さらに4号機でも使用済み燃料プールの爆発があったと思われるが、東電は「3号機から流れ込む水素で爆発した」と嘘を言っている。爆発時、すでに互いをつなぐ配管は破壊されていたし、地下に配管が生き残っていたとして、水素は地下へは流れない。

### ③ 500ガルで壊れた意味

- ・ではなぜ、わずか500ガル未満で配管に亀裂が入り、爆発が起こったことを隠すのか？
- ・2006年に原発の耐震指針ができ、3月10日までの原子炉はどんな地震にも耐えられるとお墨付きが出ていたのに、これがたった500ガルで壊れたら、その耐震指針がダメだったと証明することになり、全国の原発を動かせなくなるから。

- ・原発は元々地震を想定してはいなかった。それは原子炉を設計してきた田中三彦氏が証言している。詳しくは田中氏著作の『毎日・エコノミスト』臨時増刊7月号、岩波『科学』9月号を読めばわかる。

### ④ 福島事故の真相

- ・福島第一の現場職員たちは必死で働いているのに、幹部たちは保身にばかりはしっている。そのためか時々職員がリークしてくることがあり、その中で「地震直後、配管は駄目だ！と連絡があった」という話がある。

- ・田中三彦氏、渡辺敦雄氏、後藤政志氏が民主党議員の川内博史氏の求めで、原子力関係者との非公開ヒアリングに主席した際、田中さんたちの質問や反論に、誰も応えられず、データも証拠も出てこなかった。

- ・その件も含めて、10月26日に三人が記者会見したが、テレビニュースでは流されず、新聞の扱いも小さかった。

・結論として、東京電力や国の報告は矛盾と欠陥だらけで、配管破断の可能性を無視するのは科学的ではない。そもそも原発は地震を想定して設計されていないので（アメリカ・ヨーロッパは地震が少ない）ので、ストレステストは意味がない。

2、日本全土の原発は、次の大地震を前にして、一触即発、断崖絶壁の状態にある

### ① 福島第一原発事故後の各地の動き

・福井県知事、原発再稼働に反対「国は事故の原因を津波としているが、地震が原因と指摘されている。どっちなのかはっきりさせろ。まずは安全第一、県民の安全確保と電源需給は別の話。本当に供給が大変なら天然ガスに切り替えろ。福井で作った電気を使っているのは主に関西の人、死ぬ時は一緒だ」

・湖西市市長・三上氏「市町は市民の生命と財産を守るのが役目、政治家なら自分の意見を言うべきだ。市民は自分たちの首長にどういう考えなのか聞くべきだ」。

・牧之原市議会が、スズキの工場移転を止めるためにも、浜岡原発永久停止を請願。

・東海村村長が、東海原発廃炉の意見書を国に出す。東海村から始まった原発が東海村から終わる。

・新潟県知事が柏崎刈羽原発の再稼働をつっぱね、静岡県知事や静岡県の各市町も浜岡原発再稼働に反対。

・福島県議会が福島第一、第二原発の廃炉請願を決め、福島知事もしぶしぶ承知。

・函館市市長が対岸の青森県の大間原発建設工事の無期限凍結を申し入れ、札幌市市長が柏原原発を止めろ、大分県でも伊方原発止めろ！の声がわき上がる。（大分の人たちに、愛媛に行ってくれと広瀬言われた）

・問題は、佐賀県知事、鹿児島県知事、北海道知事、青森県知事、南と北を退治するのが大事。愛媛県知事はどっちだ？

・伊方原発に対して、松山市長が何も自分の意見を言わないのはおかしい。

### ② 地震について

・地球は内部が生きていて、日本が一番早く動く太平洋プレートとフィリピンプレートとユーラシアプレート、北米プレート4枚がひしめきあう、世界で一番危ない場所。

・近年の地震はすべて世界中のプレート上にあり、それらは連動している。

・過去の日本の歴史を見ると、江戸時代に、元禄大地震・東海・南海地震・富士山噴火・桜島噴火・浅間山噴火・雲仙普賢岳大噴火と立て続けに起こっている。

・大正時代にも、霧島噴火・桜島噴火・関東大震災と続き、一昨年から桜島噴火が激しくなり、霧島の新燃岳が噴火した。それらは中央構造線上で起こっている。阪神大震災の地震も中央構造線の延長線にあると思われる。

・阪神大震災以降、日本は地震の活動期に入ったと言われていて、阪神以降 2000 ガルの揺れが各地で起こっている。そのため、新幹線が脱線したり、柏崎刈羽原発が停止したり、

岩手県の山が消えたり、浜岡原発が緊急停止したりしている。中地震の後に大地震が来る。

- ・地球の万有引力（重力加速度）は980ガルなので、1000ガルの揺れが続くと建物は必ず浮くので、壊れる。現在の耐震補強は机上の計算で、実際は建設当初の耐震性しかなく、張りぼてにすぎない。

### ③ 津波について

- ・津波とは、後ろから次々と波が押し寄せてくる現象で、水の体積が問題。水とともに物体も押し流されてくるし、人間ではどうしようもない力なので、防水壁など役にたたない。

- ・今回の津波は最大40メートルといわれているが、明治にあった三陸地震の津波も38.2メートルとほぼ同じ、1771年に起こった明和の大津波では石垣島で最大が40メートル、遡上は85.4メートルで、700トンの石が打ち上げられた。津波の世界記録は1958年のアラスカ地震で、525メートル。どの原発の津波対策も話にならないし、電源を高い所に作っても、送電線が切れるので意味がない。

- ・瀬戸内海は津波が来ないといっているが、大阪湾に大津波の記録がある。中央構造線が動いたら、ひどい内陸性津波が来るだろう。

### ④ その他

- ・保安院に原発関連会社のOBが入っているのが明らかになったが、これは泥棒が警察官になったようなもので、まともな原発検査ができるはずがない。こんな人たちに命を預けているとしたら、我々は全員アホだ！

- ・原発震災で最も怖いのは、ステーション・ブラックアウト（完全停電）で、電気を失えば、コンピューターは何もできない。だが現在ほとんどの原発で電源対策ゼロ、原子炉の冷却を30分は確保できるとか、バッテリーも2時間もてばいいということになっていて、それではどうも対応できない。

- ・今回の地震で福島第2原発と東海第2原発が、一月後の最大余震で女川原発と六ヶ所村再処理工場が重大事故になるギリギリの状態になり、かろうじて大惨事にならなかった。

- ・それを受けて東海村の村上村長が「地震大国日本に54基の原発があるのは正気のさたじゃない。危ないのは浜岡原発だけではない。国の福島原発事故に対する対応は棄民だ。まだチェリノブイリの方が対応がいい。保安院はひどすぎる。36万人の子どもたちの健康をないがしろにするこのありさまで、東海第2原発の再稼働などありえない」とコメントした。

- ・六ヶ所村再処理工場で重大事故があったら、地球は終わる。

- ・西ドイツが再処理工場を造ろうとした時、再処理工場で事故がおきた場合にどうなるかの試算がされ、それによると西ドイツの人口は半分になるとでたので、中止された。それを読んで、原発を止めないといけないと、活動を始めた。

### ⑤ 伊方原発について

- ・伊方原発のある豊後水道周辺は 2009 年 8 月から始まったスロースリップ現象による激しい地殻変動にみまわれている。
- ・伊方原発の前を走っている中央構造線は、M8 を超える巨大地震を起こす世界最大級の活断層で、高知大学地質学の岡村眞教授の超音波検査により、ほぼ 2000 年周期で地震が起きていることが明らかになり、前回の地震からすでに 2000 年経っているので、最大で 1000 ガルの揺れが予想される巨大地震が迫っている。
- ・伊方原発では、瀬戸内海に津波はないと津波対策を怠っているし、地震対策も元々 200 ガルの想定で、現在 570 ガルに引き上げているが、1000 ガルには遠く及ばない。
- ・3号機でプルサーマル発電をしているので、事故の場合、福島第3号機と同じような酷い放射能汚染をもたらす。
- ・伊方で事故が起これば、瀬戸内海は死の海となり、松山は壊滅、今治も人が住めなくなり、四国・九州・瀬戸内海沿岸一帯がダメになる。
- ・四国電力は原発がなくても、電力不足にならない。なぜなら、不足するといいいながら他電力会社に 80 万 KW も融通しているし、四国地方の自家発電能力は 2010 年 9 月末で 218.9 万 KW あり、他社受電 97.8 万 KW の 2 倍もあるので、25 % の余力がある。さらに他社受電の発電能力が 300 万 KW もあるが、この数値は公表されない。伊方原発発電の 202.2 万 KW と 2010 年 12 月における他社受電契約の最大値の実績 97.8 万 KW を合計すると、ちょうど自家発電能力 300 万 KW となる。したがって、自家発電能力を公表しないのは、「原発廃止による電力不足」論を煽るためのトリックにすぎないことが明白だ。

## 3、日本全土に広がる被曝の深刻さ

### ① 現在の福島第一原発

- ・終息の見通しなし。原子炉建屋が木端微塵のままで、かろうじて 1 号機の周りをおおいで囲ったくらいのもの。それでも上への放射能漏れは防げる。
- ・特に 2 号機では格納容器の底が抜けているので、放射能物質が現在どこにどれくらいあるのかわからず、どこか地面の中に落ちていると考えられ、冷却しようにもしようがなく、取り出す方法もない。そこからの放射能が永遠に熱を出し、放射能が地下水に流れ出し、海へと流れている。
- ・汚水槽に地下水が流れ込んでいるといわれているが、流れ込むのではなくて、通じ合っているのが現状。チャリノブイリの 1.5 倍の汚染状態。
- ・4号機では、いつ高い所にある使用済み核燃料プールが崩落してくるかが心配されているが、手のつけようがない。崩落すれば、原爆と同じ大爆発が起こり、燃料棒がむき出しになるので、人はいられない。原発と原爆は同じ。
- ・放射能の放出は減少していると言われているが、累積量が問題で、それはますます増え続けている。

- ・それなのに水素も酸素も測っていない。また中性子が測れないという。中性子が2個以上あれば臨界が起こっていることなので、測らないのはおかしい。

- ・結論として、いまだ再臨界状態で、水蒸気爆発や水素爆発など、いつ大爆発がおこってもおかしくない。

## ② チェリノブイリとスリーマイル島の現実

- ・チェリノブイリでは700kmまで汚染が広がり、5年後から子どもたちの甲状腺ガンが増えてきて、現在はその子どもたちが成人して、成人のガンが増えている。チェリノブイリの現状を知りたい人はドキュメント映画『チェリノブイリ・ハート』を観よ！

- ・スリーマイル島では、放射能は出なかったとされ、出ている福島よりはるかに少ないはずだが、9年後に9歳の少女が失明し、その少女が近所を歩いて回って、それぞれの家庭で異常のある人を調べて、地図上にピンで現したら、事故の時風下にあった地域で異常が多発していた。

- ・チェリノブイリでは4年後に100万人が白血病になっている。これは体内で染色体異常が起こったため、親にそれが起これば、その子どもは健常ではられない。

## ③ 日本の汚染について

- ・放射能汚染を川の水で1とすると、プランクトンで2000倍、魚で1万5000倍、アヒルで4万倍、子ツバメで50万倍、水鳥の卵の黄身で100万倍の濃縮が起こる。卵の黄身というのは、人間の卵子で、生命は赤ちゃんのために全てを与え、母乳にもそうするため、濃縮が強くなる。現在日本でもプランクトンの濃縮が始まっている。

- ・福島では子どもの半数が体内にセシウムを持つ。国が放置したので汚染され、今も線量計とマスクを付けて生活しているが、そこにはいけない。

- ・ECRR(ヨーロッパ放射線リスク委員会)が「福島第1原発から200km圏内に住み続けられれば、10年間で22万人、50年で40万人が癌になる」と発表した。また、日本が食品の暫定基準を1kg中500ベクレルと決めた基準となったICRP(国際放射線防護委員会)の計算を、「ICRPの計算には内部被曝が考慮されていない」と批判した。その報告書を読んで、ドイツ、スイス、イタリアが原発廃絶に動き、原発大国のフランスの人々も77%が原発反対となった。その報告書を読んでいないのは、日本だけ。

- ・アメリカのステューブ・ウィング博士は「10年以内にガン患者は100万人となる」と試算した。

- ・日本はチェリノブイリ事故後に、370ベクレル以上の食品は本国に送り返していた。ヨーロッパの医師は、乳幼児は37ベクレル以下、オーストラリアでは11ベクレル以下としている。ドイツ放射線防護協会では、乳児・子ども・青少年が4ベクレル、大人が8ベクレルとしている。

- ・日本は文明国ではない。牛の放射能汚染の際、犯人は稲ワラとされたが、本当は水とほ

こり。その上規制されたのは牛肉だけで、内臓（ホルモン）は西日本に流通して食べられた。西日本の人たちはポカンとしているから、食べてくれる。

・現在の汚染地図は、ヘリコプターで空間線量を測って、机上の計算で土壌汚染度を決めているので、現実とは合わない。新宿区はビルにぶつかって大量に放射能が降り積もっているし、アスファルトのある所は放射能がどこにたまっているかわからない。千葉県柏市の事件によって、下水処理施設にたまるのはわかったが。

・杉並区の我が家で1万 7160 ベクレル、近くの公園で9万 2235 ベクレルあった。孫娘は体操で床に手をつく時、セシウムを吸わないために息を止めるのだと言う。

・福島大学による調査で、高空の放射能汚染も報告されている。

・食品のセシウム検出の麦の表を見ると、千葉県で不検出なし、茨城県で不検出3カ所なのに、事故のあった福島県で不検出が多い。これはおかしいことだ。

・今後、試料のすり替え、検出下限値切り上げ、規制値より低い数値は公表しない、汚染物と他を混合しての平均値による切り捨て、測定時間短縮による不検出、プルトニウム・ストロンチウムなど危険物質の除外、など、数値のごまかしが増えてくるだろう。

・また産地偽造も起こってくる。現在も汚染地域の農作物は北（どこかはっきりしないが）へ送られ、西日本の人が買い付けて、沖縄などに回っているという。だがそれは農民が悪いのではなく、何の保証もしない国や東京電力が悪い。

・放射能は半減期があるが、決して消えない。安全になるといわれる1兆分の1になるのは、半減期の10倍。一番半減期の短いヨウ素でも約1年、プルトニウム239では半減期が2万4110年なので、24万1100年。

・中性子は肉体組織内部をズタズタにする。X線の低線被曝でも皮膚ガンになる。皮膚は内臓を作っているので、体内被曝すると、内側からガンになる。1kg辺り500ベクレルの食品を100g摂取すれば、1秒間に50発の放射線を浴びていることになる。

・4月5日から7日にかけて、放射能は四国を超えて、韓国、北海道と広い範囲を回った。日本全国汚染されている。さらにこれからは落ち葉にセシウムがついて、水源が汚染される。現在、福島県ではない阿武隈川の河口域で、海藻や魚介類が汚染されていた。

・これからはすべての食品にベクレルを表示するべきだ。日本の自給率は40%だが、その産地の6割が北海道・東北で、もし佐賀と鹿児島で事故があれば、日本は食べ物がなくなる。北海道なら乳製品がなくなり、伊方だと瀬戸内海の物がダメになる。西日本のどこかで事故があれば、もう日本に食べ物は無くなってしまう。

・これからは子どもたちの被曝を減らすのが第一、内部被曝を減らすには、汚染食品の流通を監視しなければならない。

・生き延びるためには、原発を即時止めるしかない。10年後に止めても遅い。原発を止めても、電力不足には決してならない。

もっと詳しく、ちゃんと講演を聞いてみたい方は、26日の松山講演会、27日の今治講演会の様子がインターネットで見られますので、ご覧ください。

>

> ・松山講演会のYoutube動画

> 2011.11.26 広瀬隆 松山講演会 part1

> <http://www.youtube.com/watch?v=LEwUx6hVSB4>

> 2011.11.26 広瀬隆松山講演会 part2.

> <http://www.youtube.com/watch?v=p67-vHLLer4>

> 映像がいいとのこと。

> ・松山会場の動画

> 1126 広瀬隆講演会 1 福島原発事故

> <http://www.youtube.com/watch?v=sLSzi7QGIZE>

> 1126 広瀬隆講演会 2 地震の日本

> <http://www.youtube.com/watch?v=pi8RLRvg5no>

> 1126 広瀬隆講演会 3 地震の四国・伊方

> <http://www.youtube.com/watch?v=j3JVOPvggQA>

> 1126 広瀬隆講演会 4 子どもを被ばくから守れ

> [http://www.youtube.com/watch?v=3Fgmk\\_lcPy0](http://www.youtube.com/watch?v=3Fgmk_lcPy0)

> 1126 広瀬隆講演会 5 四国の電力事情

> <http://www.youtube.com/watch?v=TMef-BnKeNg>

> 1126 広瀬隆講演会 準備とあいさつ等

> <http://www.youtube.com/watch?v=sNA1b2qCM8M>

> ・今治講演会の動画

> 111127 今治広瀬隆講演会前半

> <http://www.youtube.com/watch?v=menNHNNXrh4>

> 111127 今治広瀬隆講演会後半

> <http://www.youtube.com/watch?v=y0WgYLT5Ks>

前半と後半の間の1時間ほどは収録に失敗して切れています。

>

> ・松山会場当日の、ツイート紹介

> <http://togetter.com/li/219443>



## 広瀬隆の本の紹介

原発の真実について、もっと知りたい方には、広瀬さんの本をお勧めします。

### ① 原子炉時限爆弾 大地震におびえる日本列島

福島原発事故が起こるわずか前に事故を予言した本、「原発震災」の決定版

〈内容〉『1960年日本原子力産業会議が科学技術庁原子力局に提出した極秘文書によれば、「茨城県の東海発電所で最悪の重大事故が起こった場合、日本全土で農業ができなくなる」という内容だったので、闇に葬られた。』という序章から始まって、東海大地震による浜岡原発の危険性、地球と地震の基礎知識、地震列島になぜ原発が林立してしまったのかというカラクリ、現在の原子力産業が置かれた末期的な状態などを、信頼できるデータをもとに、詳しく、わかりやすく教えてくれます。

### ② 原爆の闇を暴く

東電関係者、御用学者、総勢 20 名を「業務上過失死傷罪」に刑事告発した立証の論

〈内容〉『嘘と詭弁と癒着の歴史が「最悪の人災」を招いた！原子力マフィアの大罪を問う。』と帯に書かれています。原発震災の危機をかねてから予測し、警鐘を鳴らし続けてきた作家・広瀬隆とルポライター・明石昇二郎が、事故を招いた構造とその責任の所在を徹底的に白日の下にさらした本です。国（政治家や官僚）、電力会社も含めた原子力産業、御用学者、そしてそれらに追従してきたマスコミや文化人、それらを「原子力マフィア」といいます。「原子力村」では生ぬるいのです。彼らの刑事責任を迫る内容です。

### ③ 原子力産業の終焉 新エネルギーが世界を変える

原発なしでも電力は賄える / 燃料電池、高効率天然ガス火力の未来は明るい

〈内容〉「二酸化炭素温暖化説は、原発推進のための嘘だった」という衝撃的な事実。「自然エネルギーに固執すると、かえって原発の延命になってしまう」というエコノミストの常識をくつがえす論証。「石炭や石油など化石燃料は決して枯渇しない上、天然ガスはほぼ無尽蔵にある」「ガス火力はクリーンエネルギーだった」というような目からウロコの内容です。わたしたちが使っている電気はその 62 %が熱として利用されているので、熱（火力発電所・原子力発電所）によって作った電気をまた熱に変えるのではなくて、電気を使うたびに、この熱エネルギーを同時に生み出す理想的なシステム、それが『コージェネ』であり、それには分散型発電が向いている。分散型発電にすれば、1:熱エネルギーの利用率の向上（排熱の減少）と、資源の消費量の削減、2:経済性の向上、3:送電線での電気を送るためのエネルギーロスの削減、4:自然破壊なし、のいいことづくめである。将来的にはマイカーのように、マイコージェネ発電を目指そう！

### ④ 原発破局を阻止せよ

福島事故後の、週刊朝日への好評連載を緊急出版